



ぼくらは幾多のもので武装しなければならない。事実の中に真実を欠落した暗く重い情況をはつきりと視据え、親切過ぎる報道のすぐ裏で深く潜行している絶望的な古くて新らしい悲劇を永遠に拒否するためには木を見て山を見ない善意のあわて者友人を憎んで敵を視失う残酷な物知りと今こそ訣別せよ。吹き荒ぶ冷たい木枯らしの下翳りの内に埋葬された多くの悲しみを喰い物にするのではなく、真実我がものとし決して忘れるではない。既に幻想の色は褪せ、擬制の棲闇は朽ちはてた。世界は今真理を喪失した非常な苛烈の中にある。今こそ夢の中の日常に忘れ去られた『拒否』を吹き荒ぶ嵐の中にはつきりと復権せしむるのだ。

- 1 -

われわれの交代者たちへ

新刊生歎迎実行委員会

われわれの孫たちは、資本主義制度時代の文書と遺物を、珍奇なもののように見るであろう。生活必需品の商業が私人の手にゆだねられるというようなことが、どうしてありえたのか、どうして工場が個人に属することができたのか、どうしてある人が他の人を擯取することができたのか、——彼らは苦労してやつと想像することができるだろう。今まで、われわれの子供たちが見るであろうものについては、おとぎ話のよう語ってきた。だが、いまは、同志諸君。われわれが土台をきずいた社会主義社会の建物がユートピアではないということを、諸君ははっきりと見ておるのだ。われわれの子供たちは、この建物をもつと熱心に建ててゐるであらう。」（一九一九年五月一日）

「……でもなく、我々は「社会主义社会の動物の土台」すらきさいてはいない。それどころか、六七年以降、大きくなたかまりを生みだし一定の高揚を持続したかにみえる我

は、ただちうなかい知る」とができるだろう。冒頭に引用したレーニンの赤い広場に於ける演説の中の「子供たち」は君たち新入生である。君たちは、我々があの六八年七〇年の全国的な学生叛乱の過程で獲得した地平を「

ユーノピア——ではな、こゝをすぐ見てくるだうし、も

「……ところが気がついたとき、漢達は『異邦人』として

故オバチヤンに捧ぐ

一更なる世界性を獲得する為に

學苑會中央執行委員會
委員長永田

果には

- 6 -

たかいつづけるだろう。
もとより我々は、明治大学という「未知の世界」に入ってきたばかりの君たちに、「俺たちはこうしてきた、お前もやれ」と云ふ上から呼びかけるような気持も安易な連帯を語る気持も更々ない。ただ、我々が多くの先輩達からひき継ぎ、守り、発展させた現在の明大に於ける到達点を、総括的に、もっぱら一視点として明らかにすることは、我々の義務である。あるが故にこのパンフレットはこれからの方たちの、いわば議論と行動の叫き台になれば、我々は満足である。

さて、普遍はそれのみにあっては更なる普遍への発展を為すことはできない。普遍は一度個別化されることをつゝじる以外にそれの発展は望むべくもない。では我々の「個別」とは何か。我々の「個別」とは、すなわち「明治大学」であり、さらには帝国主義国家「日本」である。我々は、現実の「明治大学」に於ける学生としての自らの立場性をして現実の帝国主義本国に於ける日本人としての自らの立場性を、深刻に自覚することからはじめなくてはならない。マルクス主義者はこの意味に於いて極めて現実主義者であ

「……ところが気がついたとき僕達は「異邦人」としての地、日本に立っていたのである。そして僕達は思い出た。日本と日本人が、沖縄と沖縄人に何をしたかを／それをはじて、僕達は考えた。僕達が日本人になることによって、沖縄は解放されない。この世に生を受けたとき「日本人になりたい」と誰に言った覚えもないのに。そして今、僕達は必ず死に叫ぶのである。この地は僕達の「祖国」ではない／古日本人に僕達の沖縄の運命を決定する権利はない。」これ／は昨秋の「沖縄国会」に於いて、ブルジア政治委員会の頭目佐藤の演説が始まるや否や、爆竹を鳴らして決起した沖縄青年同盟の同志による決意書の一端である。彼らは統けて書いている。すなわち、「沖縄の解放斗争は基本的には階級的視点に立った民族解放の闘争」であり「眞の民族主義は決して排外主義でも國家主義でもない。個々人に是異った性格と各々の生活があるように、世界中のあらゆる民族はそれぞれの民族の歴史や異なった帝国主義支配の政治的状況をもっており、このような民族性の自覚なくして眞のインターナショナルな視点は育たない。」

- 4 -

浅間山莊に於ける「銃撃戦」の後、それ以前からの連合赤軍内部での「党内斗争」が、ブルジ・ロジー側から、全こう「アヌ・コミーを通じて一方的な形で明きらかにされ

オバチャヤンの「死」は一つの結果である。結果には必ず原因があることは、科学的方法をもって、物事を判断する者にとっては自明の理である。また、結果そのものは原

九

そのアプロセスで、明太二郎に在籍し共に斗ってきたオバチャンの死』が、我々の前に提示されてきた。我々はオバチャンの『死』に至る過程を、敵権力の御用機関としてしか存続しない『マスクミ』のキャラクターの一環からしか知ることができない。

自衛官殺害の時に於ける、かの『大』朝日の演じた茶番劇をみても明きらかであろう。

それ故に、我々は『マスクミ』の報道を信じてはいない。『マスクミ』の死』が、『銃撃戦前』に

さにその点を貫徹してこそのみ、オバチャンと連帶かかわる
とれると考えるからである。

そのことを、主觀的、一面的、表面的に見るんではな
全体を見、本質にふれようとするのである。

こんどのことは、ブルジョアジーの矛盾ではなく、我
斗う者、否、全人民の矛盾なのである。それ故、我々は敵
権力の介入、分断の反共キヤンペーンを絶対に許すこと
できないし、そのことは我々の粉砕の対象なのである。

4

普遍の我々の個別化はこれ以外にない

これまでの日本の階級斗争理論を代表してきたのは宇野、石田の理論であろう。彼ら理論と実践の極めて巧妙な分離では、少なからず新左翼に影響を与えており、全とうな批判的ならぬといつうが「我々の」現在的な力量不足はあるが、それが再検証される必要がある。「……かくして、日本のノロ・フレタリーアートをひきいて、来たるべき資本主義の世界危機を、日本のノロ・フレタリーアートに転化し、それによって同時に、アジア革命の勝利への展望を中・ソ・ノロ・フレタリーアートの階級的覚醒……云々」（岩田弘）今は昔に、あたかも革命前夜の如き「理論を展開」している岩田が、中ソ・ノロ・フレタリーアートをひきいるばかりか自分のセクトす四散させてしまつたことを、学友諸君は熟知されているろう。我々の感覚から言えば、岩田の言うような日本マクス主義の如き发展にもかかわらず、ろくなマルクスの書き普及していない「後進諸国」に於いてあれほどに革事が發展するのは何故だろうか」といった疑問が先に立つ。マルクス主義の理論が、それと現実の人民の生活と密着した階級意識において豊富化されるのではなく、理論として「純化」される「……学」（訓話学）が日本ほど「発達」している国がどこにあらうか。我々は現実の我々の生活からかけ離れた、皮相的な訓話学の拡大再生産をくり返しては

新人生諸君。今、君たちのまわりを見て欲しい。ロシア革命勝利の後レーニンが子供たちに「資本主義制度時代を珍奇なものに見るだろ?」、「と語った、そのような「珍奇」なものが君たちのまわりにありはしないだろ?」。矛盾と屈辱と暴虐に満ちた社会があるはずである。そのような君たちの生活過程に於ける全ゆる試行錯誤をとおして、我々との連帯を追求していこうではないか!

「われわれには、批判と自己批判というマールクス・レー
ニン主義の武器がある」(毛沢東)

— 5 —

人民の矛盾を真に全生活過程から止揚しうるものは何か

九

浅間山荘内に於ける「銃撃戦」に参加できえない我が「主体」に身を焦がしつつ、オバチャンの「死」の前に

たオロオロすることしかできえない「主体」に、またいいらしている。

常に「一般的」にしか革命を語りえないが故に、また観念的な心情的なものでしかなかつたが故に、「語る」

今后我々は、眞に革命を領導しうる党建設を目指して、

いの駒を進めていくであろう。そういった視点をもつて我々は大衆運動をなしきる。

異なる人民と連帯しきつた「銃撃戦」を目指して。
我々は、我々に対する批判を恐れはしない。我々に對する批判は、我々にてち若者にて、

本校生は我々をより発展せしめていく教師であるから。批判・反批判ではなく、正に拡大中執会議の席上、一員がのべにようて批判・自己批判をうなづかせる。

オバチャン。見ていてほしゃ。オバチャン嘘の悪
きよ

は批判的に見、発展的面は全面的に我々内部に注入するであろう。

ここで再度、毛沢東の言葉を引用した。

ている国かどこにあろうか。我々は現実の我々の生活かけ離れた、皮相な訓説学の拡大再生産をくり返しては

「一九四二年に、われわれは人民内部の矛盾を解決するこうした民主的な方法を、『團結——批判——團結』という公式に具體化した。すこしこわしくいふと、團結の願いから出発し、批判あるいは斗争をつゝじて矛盾を解決し、これによつて、新しい基礎のうえで新しい團結に達すると、いうことである。われわれの経験によれば、これは人民内部の矛盾を解決する正しい方法である」

新人生諸君！共に前進しよう。更なる世界性を獲得する為に。全的解放を目指して。

追伸
オバチャンへ。「死」は絶対に無いしないことを要う。我々が広い宇宙の「元素」と回帰した時に、必ずオバチャンに次の一様に報告する。「世界革命は勝利」、なお前進中であります」と。

闘いのさ中から共同性の創出を

駿台文学会

- 8 -

繰りかえし言われて來た事ではあるが、聞いが高揚を見せ、一派豪いの中で自らの感性的活動の自由で真実の雄叫びをあげたが、達達の中からも必ずと言つていい程、鬪争の下降過程には、消耗不毛とも言える觀客主義的で一見ヒカルな総括が間戸に溢れ出で、その中の叫びや號び、呻しき笑い、泣き声、少くともその中で生き残っていたことを消し去った総括は、僕達は無縁なのだと切っててしまおう。

聞いは無意味ではなくたが一古一古と言う清算主義的で、戦列を離脱することを合理化する為の者には、一体如何

ズのその者達は、そのボーラス故に、自らの荒々しいバトスを
庄殺してしまう。

僕達は、中途半端な挫折を執拗拒み統けて鬨り抜くとほど
うい事なのがを考えながら闘う。風化に晒された「存在」を
の根底を執拗に追求することを通じて、その刃は現実を鋭
く引き裂く剣となろう。僕達は評論家風に物解り良好世界
を語るつもりもないし、一般的な歓迎や辞書を送るつもり
もない。何故なら現実の大學生本体、粉飾された幻想とは背
り立つ。この資本主義社会の醜態な矛盾に根本から貢徹
理して、この資本主義社会の醜態な矛盾に根本から貢徹

「自由なる市民社会」に真向から対決して行くこと、そしてこの共同性の中にこそ、この社会を越えて行く「新たな社会性」が孕まれているのだと言いたいことが出来るのだしさう僕達は新入生の諸君がその闘いの戦列で共に闘わんことをこそ要請したい。

右に示していることを読むが如きをばんらいものであつる。
「ブルー」は、専門知識を通じて商業を主とする企業
を担う専門白衣、専門奴隸の産出過程でもある。中卒者は
肉体労働者として、高卒者は技術労働者として、大卒者は
精神労働者として、企業のものに送り出され、そのことが
その人間の労働力商品としての価値のみならず人格的内容

鉄柵に包囲されたコンクリートの空虚な空間の中で、相互に分断され氣化させられた不安な学生が、「自由」の外観の下で不斷の激烈な競争に打ち勝ったが為に、昼間の労働で疲れ果てた肉体と眠気とに鞭打って、懸命に自己を励ましながら、何の豪哲もなく並んでいる。—これが授業風景である。

場、教育の場は決してそれが偶然に社会から切り離されて存在するものではなくむしろ、資本主義社会の教育とは本来的に社会的に規定された「産業協同路線」の貫徹の場としてあり、大学だけが何かしら自立的で資本に犯されていい、などという誤った把握から生じて来る。所謂「進歩派」の独占的スローガンであった教育の自主性」「大学の自治」

新入生諸君！僕達は今、競争に打ち勝つ事を「歓喜」として受けとめ「エリートコース」を選ぶことも（それはより深い歴史を含んだ存在となることでもあるが）、相互の分断を打ち破り、新たな共同体の創出に加わることも、二つながらの選択が必ずしも同じ課題となっている。休間の労働で疲れ果てた体を夜の宿舎に運ばせているものが何であるのか。それは「真理の探求」云々という表面的、一般的理由に基底にあって、就職、職業の問題として産業社会の要請する技術能力の獲得の為としつゝ確実に存

論が、そのすべてが幻想を追う事に過ぎず無力である事は当然の帰結である。

「産學協同」とは個別資本と大學（教育、研究機關）との癒着のみを言うではなく、教育の總過程が資本の自立した経済的活動の下に厳しく隸屬して行く狀態である。確かに個別資本は、教授個人を通じたその教育の個別企業への眷戀は有り得るが、しかしながら教育闘争がその排除に留まるならば、非民主的大学行政の民主化を内容とする（それは研究水準の向上の為に今日の資本自身が望むところである）大

学自治論の誤謬を再び犯すことになるであろう

「反産学協同」をスローガンとして闘われた66年の早大

開争は、学生が自らの社会的弱局に立ち向かうことを通じて労働者階級解放の一環としてその闘いを実践的媒介としてつ学生自身の階級化を克ち取り、自己の矛盾を解決する闘争

8—9年の日大、東大を頂点とする全国教育闘争は、早に於て、根本に於るスターリニズムとトロッキズム運動の止揚を賭けて行動委員会運動を以つて現実に着手したのだ。

特に△学生参加△としてなされんとし、他方では大学立法をもって闇に團結の國家的暴力の直接的行使による徹底した解体殺戮の攻撃が行われて來た。(八千五百名の機動隊員の集中砲火によつて安田講堂が陥落させられたことを想起せよ)その時團結は政治社会機關を闘争する事迫られた。それは自己的制約に対し闘争中から、反合闘争を脱う労働者の中に自己の勝利を見児し、工場制度の爆破の中に闘争の本質的勝利を見て行く地平から労学連帶△異った分業間の連帶の獲得に向けた一步を踏み出す事であった。

大闘争の中で明確化されて行った「反産協」の内容が更に深化され全国的波及展開に入ったのである。

労働者組織の右翼的再編を伴った産業合理化の進行とそれに見合った専門奴隸化、部分人間化を競争と分断の中で、学生の自然性の外觀の下に「推し進めるもの」として教育の帝国主義的再編が登場している。その帝国主義の巨大力量の制度的巨大な完成(特に、労働監獄、教育監獄)として社会的隸属化(特に、労働監獄、教育監獄)としてあること。これに対して八全面的に発達した人間となるための「八欲求の全面開化」を目指す反産協の闘う團結をもて闘い抜かれた。この闘いの前進に対し、一方で団結共同性)を解体して、バラバラな孤立した抽象的個人の参加)によって、闘うエネルギーの近代化路線への收約

69年10・11月闘争は教育闘争の中から生み出された行動委員会連合としての全共闘運動が全国的連合を形成する中から労働者階級の権力闘争に肉迫する中で、闘う者の思想を遙ものに基づきとして聞いて抜かれた。だから闘う者の思想を遙かに越える家庭権力装置の前に敗北して行った。そのような負性を背負いながら、70年安保決戦を地区労共連行委員会を基礎として、地区ソヴィエト（地区に広くた労働者が自らの手に運営する小さな行政区）の樹立を目指し、70年代労働者政府樹立に向けて聞いて抜いた。今、僕達は敵としてこのような地平に立っている。そしてその事を凝縮した形で最も鋭く突き出しているのは三里塚の農労闘争であつた。あの共同闘争の中でも、その基礎として聞いて抜かれたのが機動隊のあの学を買った長く熱いあの激闘であった。あの共同闘争の中でも、その基礎として聞いて抜かれたのが機動隊のあの

陰険な顔と僕達の社会性、共同性を対比して見よ、

獄・精神病院幽閉の保安処分が陰然から公然へと転化され

対して強化されている弾圧は、アパート・ローラー作戦で一人一人がチェックされ、その事を通じて「善良な市民」と自覚的で反革命のテロルの行儀を隠す組織個人にて

獄^ノ精神病院幽閉の保安処分が陰然から公然へと転化され
る。

に「過激派」に対する不安感を注入しつゝ警察との緊密な連携体制を構築していく。格的な反革命の為の地城奪回の促進である。そしてあの、荒間山君に追いつめられた合連赤軍に対する狂気の戦いは、近衛師団を備した機動隊、オリンピック出場選手7名を含むライフル部隊、レインジャー一部隊から警備心理学研究会までも員を含む、され、殺してもらいたい」という極限的な階級懶懶を露骨に

個別明治大学に於ては 68—69 年全国教育闘争の真只中に登場した大学臨時指置法と、い國家権力の直接的介入策動と相呼応して「対策委員会」を設置し、学生の反乱に対する強権的な弾圧体制を作りあげ、「教育一運営権」の分離を標榜して「学生成立参加」「教育研究の効率的な制度への改革」という「合理化路線」を学内の近代化という名目で「自主的に」に推進している。僕達の学ぶ二部に於ては、「収益の上がらない二部は全面的に廃止するか、二部独自の教育体系を作る」とことが検討されている。確かに半数の者が一部

した弾圧である。労働者、学生、農民こそが現在の日本列島を貢いた、この帝国主義工場制度の風の様な再編の渦中で、島を離れて、陰然たる殺戮に晒されているのである。彼ら連合赤軍の受けた弾圧こそ、歸る者全てに明白に向かっているものなのである。

一 東宝争議に敗軍までも出動したことを想ひ起せ――

獄——精神病院幽閉の保安処分が陰然から公然へと転化され
る。

個別明治大学に於ては 68—69 年全国教育闘争の真只中に登場した大学臨時指置法という国家権力の直接的介入策と相呼応して「対策委員会」を設置し、学生の反乱に対する強権的な弾圧体制を作りあげ、「教育一連掌權」の分離を基調に「学生参加」「教育研究の効率的な制度」への改革という「合理化路線」を学内の近代化という名目で「自主的」に推進している。僕達の学ぶ二部に於ては「収益の上がらない二部は全面的に廃止するか、二部独自の教育体系を作る」とことが検討されている。確かに半数の者が一部への転部を希望しており、卒業者は入学者の六七割しかない。また半数は臨時労働者で、三割の者が定職をもつてゐる。この事は二部が現行教育の矛盾の集積としてあることを示しており、同時に双方が二部の労働の存在を、何の保障もいらない安い安価で使い捨てる出来的労働力として功みに利用しているのであり、つまは土をより省くとして、

「人質救出作戦」を通して「過激派」は狂気集団であるといふ官製世論作りをマスコミをフル动员して行い、自らの作った世論に応えるという形をとって73年刑法改悪に進もうとしているのである。こうして友部階級に抗して弱う者

獄¹精神病院幽閉の保安処分が陰然から公然へと転化され
る。

個別明治大学に於ては、68～69年全国教育闘争の真只中に登場した大学臨時指揮法²といふ國家権力の直接的介入策動と相呼応して「対策委員会」を設置し、学生の反乱に対する強権的な駆逐体制を作りあげ、「教育一運営権」の分離を基調とする「学生参加」「教育研究の効率的な制度への改革」という「合理化路線」を学内の近代化といふ名目で「自主的」に推進している。僕達の学ぶ二部に於ては「収益の上がらない二部は全面的に廃止する」、「二部独自の教育体系を作る」ことが検討されている。確かに半数の者が一部への転部を希望しており、卒業者は入学者の六七割しかない。また半数は臨時労働者で、三割の者が定職をもつてゐる。この事は二部が現行教育の矛盾の集積としてあることを示しており、同時に企業が二部の学生の存在を、何の保障もいらない安価で使い捨ての出来る労働力として巧みに利用しているのであり、いわば全社会的の矛盾を集中して孕んだものとして現在の二部制度があることを見ておく必要があろう。

今日、全国に爆発している学費闘争は、教育再編の財改め基盤確立に対する怨うたぎ、さら、名目によっては、

へ向かた「侵略反革命」「軍事外交路線」として設定し、
自衛隊の帝国主義軍隊としての確立（これは四次防に於いて完成されんとしている）—並北合理化—學園の帝国主義的再編—自警團等々の編成を通じた地域社会の権力的再編—統じて社会の帝国主義的再編等として、その政策は強力に推進されて行っている。

上記の如き米帝の世界戦略の転換と日帝の「軍事外交路線」との帝国主義ブルジョアジー反革命同盟レヴィエールとの結合として、72年「沖縄返還」があるのであり、上記の事情を考慮するならばその内実は将に沖縄の「日米共同反革命前線基地化」と云うもの以外にはない。我々が沖縄斗争を斗つ立場は「沖縄の日米共同反革命前線基地化阻止!!」以外にはありえない。「沖縄」こそは、「派兵阻止決戦」こそは、我々革命的左翼の生命線である。昨年五一六月に於いて斗われた「返還協定調印阻止」斗争は、69年に於ける敗北の中から、再び、我々革命的左翼の新たな復活を開始する烽火であった。昨年五一六月、9月三里塚、10月批准阻止斗争の爆発は、69年に於ける敗北以降の階級斗争に至るまでの全学無期限バリーストを貫徹し、学内の政治的活動一昂揚を生み出し、そうしたものの一切を「派兵阻止決戦」と集約し、五一六月の過程に於ける最も戦闘的部隊を建設して行く決意である。

我が「駿台政経学会」の革命的飛躍は五一六月「派兵阻止決戦」を断固し抜き得るか否かにかかる。そこで於いて、我が「駿台政経学会」の体内へ新人生諸君の新鮮な若き血潮が注ぎ込まれるならば、それは我が戦線の戦斗力飛躍的に前進させるものとなるであろう。新生入生諸君!! 真に斗う者のみが獲得し得る根元的な「歎び」「悲しみ」を自らのもとされ、それらを共有する事に依りて、真に斗う者同士のみが初めて結び得る「同志

戦」に一切を収斂し、持てる力の一切をかけ、不拔の決意をもって、断固斗い抜くのみである。日帝は本年「沖縄派兵」に於いて自らの帝国主義的飛躍を企てているのである。さうした彼らの野望に對して有効且つ強力な反撃を行なわなければ、我々革命的左翼の生命は永久に断たれるであろう。沖縄斗争を民族主義的内容でか把握し得ない一部の諸君は、「沖縄斗争」に対する根柢的認識が欠落しているが故に、すでに現在から機會ある毎に戦線逃亡を開始しているわけであるがその様な諸君は権力と斗う事なしにすれども日本革命一世界革命の展望をも、本年五一六月「派兵阻止決戦」を死力を尽して戦い抜く中から見出して行く以外ないのであり、その時、「沖縄返還」の内容把握もそれで改めて敗北していると云わざるを得ない。我々は自らの展望において、改めて行われんとしている。それは拘束された裁判。部活差別の予断をもつての狹山差別裁判。

この「治安」体制は誰に向かたものだろうか。我が「駿台政経学会」は、新人生諸君を迎えた今、諸君と共に五一六月「決戦阻止決戦」を断固革命的に斗い抜く決意であり、我々の呼び掛けに對し新人生諸君が力強く答へ切り、五一六月へ向けただちに決起せん事を要請した。我々は面面する4・28「沖縄デー」に於いて、「派兵阻止決戦」に対する断固とした決意の表明として、又さらいに、各入生諸君に併せて、

- 16 -

- 17 -

闇いは今々烽火を上げん

これは、II法自治会再建運動を最前頭に担い、昨年十一月沖縄返還協定に於いて敵の彈圧を断固としてはねのけ斗争を展開する学生からの試みアッピールです。（実行委員）

修習生処分任官拒否、裁判官再任拒否として、ブルジョアジーの事だ。

II 法自治会再建委員会

アジーはまず裁判所のレッドページを開始した。首都圈、常時數千の機動隊を配備。アバートローラ戦闘一人の動向の公審監察の把握。フレームアップをもつてのマスコミの介入（朝霞事件）。大量不當逮捕、大量起訴。留置規則改悪。破防法適用。東大、69年10・11月裁判等における傍聴人はもとより、弁護人、被告人を排除した欠席裁判。部活差別の予断をもつての狹山差別裁判。

この「治安」体制は誰に向かたものだろうか。我が「駿台政経学会」は、国内、国外諸関係の再編（一プロ独）潮流の下に結集し権力に対する徹底した斗争を開始して行くのでなくはない。我々は面面する4・28「沖縄デー」に於いて、「派兵阻止決戦」を死力を尽して戦い抜く中から見出して行く以外の進むべき道は唯一、本年五一六月に於ける「派兵阻止決戦」に対する断固とした決意の表明として、又さらいに、各入生諸君に併せて、

アジーはまず裁判所のレッドページを開始した。首都圈、常時數千の機動隊を配備。アバートローラ戦闘一人の動向の公審監察の把握。フレームアップをもつてのマスコミの介入（朝霞事件）。大量不當逮捕、大量起訴。留置規則改悪。破防法適用。東大、69年10・11月裁判等における傍聴人はもとより、弁護人、被告人を排除した欠席裁判。部活差別の予断をもつての狹山差別裁判。

アジーによる「魔女狩り」は、々国民総背番号

ブルジョアジーによる「魔女狩り」は、々国民総背番号

アジーはまず裁判所のレッドページを開始した。首都圈、常時數千の機動隊を配備。アバートローラ戦闘一人の動向の公審監察の把握。フレームアップをもつてのマスコミの介入（朝霞事件）。大量不當逮捕、大量起訴。留置規則改悪。破防法適用。東大、69年10・11月裁判等における傍聴人はもとより、弁護人、被告人を排除した欠席裁判。部活差別の予断をもつての狹山差別裁判。

- 17 -

- 18 -

福祉社会の建設を

福社社会の建設を言ひ。

しかし、このことは、合理化を通した生産体系の改編と内政に至るまで、全学無期限バリーストを貫徹し、学内の政治的活動一昂揚を生み出し、そうしたものの一切を「派兵阻止決戦」と集約し、五一六月の過程に於ける最も戦闘的部隊を建設して行く決意である。

我が「駿台政経学会」の革新的飛躍は五一六月「派兵阻止決戦」を断固し抜き得るか否かにかかる。そこで於いて、我が「駿台政経学会」の体内へ新人生諸君の新鮮な若き血潮が注ぎ込まれるならば、それは我が戦線の戦斗力飛躍的に前進させるものとなるであろう。

新生入生諸君!! 真に斗う者のみが獲得し得る根元的な「歎び」「悲しみ」を自らのもとされ、それらを共有する事に依りて、真に斗う者同士のみが初めて結び得る「同志

効秩序の下で、選別（分断）と競争の中、個々人が不斷にアトム的に生み出される過程である。「社会的要請」の下に「自由」な外観をもつて、教育は個別資本を越えた「产业化同路線」として現出する。

この事は、日共の「民主教育」、「教育の機会均等」あるいは、さまざま「教育、学問の自由、独立」とは、「一帝国の臣民となる教育」に対して何ら対抗するものではない。帝国主義的国民統合へ包摶されるものである。

現下の大帝国主義工場制度の打ち固めは、自然一人間を破壊し尽す。三里塚農民の闘い、合理化、処分に抗する労働者の突撃の闘いは、そうしたギリギリの闘いである。それは、労働階級による「政治支配能力」の開示を克ち取る闘い（ソヴィエト運動）である。

「教育を労働者階級の手に奪還」する闘いは、労働者階級全体にとって、学生による教育闘争を越えた「教育」を自らの全面的發展を充ち取る闘いである。「II部制改廃」という僕達の存立そのものにかかる闘いも、こうした闘いに外ならないだろう。僕達の存在は「II部転化への希望者」も含めて、「教育の矛盾」のはざ間にあると言える。

「教育制度は、資本主義社会に於て、労働力商品の生産、再生産過程として突撃的に発達した。それは資格差別的勞

ブルジョアジーによる「魔女狩り」は、々国民総背番号

- 18 -

- 19 -

自治会の止揚」が、止揚したボツダム・自治会の痛烈なシベ返しとして現出した意味をも総括し学ばねばならない。

暗く重い状況は絶望的であるが、抱負を直視する所よりしか問題は解決されないので。サークルの機械主義的な活動も決して解決にはならないし、サークルの「ハサロン化」の問題も、サークルを機械主義的な技術修得のための手段とする所より必然的に発生してくる慰安であり、中和剤として作用するに他ならない。ほくは「ハサロン」を一面的に否定はしないが、「サークルではクラスの冷たい関係とは異なる温かい関係があります。真正友人を持つのはサークルです。大学生からサークルを友いたら何も残りません」

等々の言葉程白々しいものはない。君の鋭い感受性はにこやかな微笑の中に悲惨の悲劇を嗅ぎ取らずにはいないだろ

う。

君はいか様にも生きることができる。現実の矛盾は矛盾

としての中でも生きることを志向しその間に抗して

技術を身に付けることも可能だし、あるいは矛盾と抗して

いたが、それが本部室迄おいで下さい。

今、欺瞞的な反復が実現されようとしている沖縄や、強引に開港を強行せんとしている三里塚など大きな問題に關しては、他の人が語ると思いますので直接にそれには触れないで文章を終ります。

幻想的でなくしては何事においても眞実は獲得され

ないし、又、絶対的な確信・確執よりも何も生まれない。本質において認識し、そして世界を解釈するのではなく、解放に向けて来るのだ。

全ては「君に」ある

――

凶に向けた鋭い告発と、対決の姿勢を共有する内にしかカッコ付きであらうとも眞実の関係は取り結べないし、認識過程において本質に迫る時さらにそれが何かを知るでしょう。「想るのは君であり、考え、思考し、論理化し、判断し、決定して行動するのは君であり、求めるのも又君

に生きようではないか。

ほくはこれ迄の文章を幾分か情緒的に繕つた感もあるが、

君への文章に論理性を求めるのも逆な意味で無理な注文で

しょう。「想るのは君であり、考え、思考し、論理化し、

意識に何らかの形で応えられるものと想います。費用も非

常に安いし、君の問題意識の実践化過程における試行錯誤

に無形の力を与えてくれるものでしょう。尚、リーキヤン

――

斗うことも選択しえる。しかし、撃されない孤独と閉じ込

められた绝望は時代的なものとして、君を苦しめ決して離

すことはないだろう。その時、ニヒリズムをもたらす

し、開き直ることも可能だが、君の精神的・肉体的苦痛は

それでは消えやらぬことも確かな事実であり、いついかな

る時にも暗い闇を持ち続けねはならないのだ。それを宿命

と呼ぶなら云へ云いだろう。だが、個人の意識性・志

向性とは関係なしに閉じこめられた状況としてあるこ

の社会的隸外より解放される時は、君の内やほくの内に必

ずや存在するのです。人間として、人間の可能性の内に共

に生きようではないか。

ほくはこれ迄の文章を幾分か情緒的に繕つた感もあるが、

研究部連合会では、今年の五月の連休にリーダーズ・キ

ャンブを予定していますが、そこにおける幅広い討論は、

君がサークルに在籍しているいない関わらず、君の問題

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

――

動化が生れ、階級、運動と、これが成されることであり、それは質的で我々の確実な斗いが必要なのである。

九・一六騒争へ人民の戦いが権力の暴力装置に勝利したのである。その戦いの独自的意義は、三里塚という完全に粉砕した。その戦いの独自的意義は、三里塚といふ日常的に戦争が展開されそれをなっている人々が現に生活しており、そういう環境と衝突に結合した戦いであった。

「人民の海」の中で「兵士」が十分に戦い得たこと。

また、在京部分のカンパ活動における緊張關係の表出といふ我軍を媒介にして、我々が身をもつて階級斗争としての、ブルジョワ社会における強力な破壊力を持った三里塚斗争にかかわった。

近代社会においては死というものがブルジョワによって分類されており、我々はそれに規定されねばならない。

だからこそ「人民の利益のために死ぬのは泰山よりも重い」。アシストのために力をつくし人民を捕獲し抑圧するもののために死ぬのは羽毛よりも軽い」(毛沢東)のであり、これが全てを語っている。とりわけ九・一六のような場合、誤ってはいけないのは、各々の闘争はそれをなす者によつてとらえ方が標準であり、その結果の評価等も当然にも違ってくるのであるから、一体何を原則的な我々の視点とするのか、ということである。

一 青行への彈圧を許さない

による革命的左翼に対する弾圧、破防法体制、刑法改悪、保安處分設置、裁判の軍事・秘密裁判化、火災ヒン立法、被疑者審査規則、アパートローラー作戦等を粉砕する戦いの一環として断固たる戦いを組織しなければならない。

三里塚斗争は反対同盟を中心として今もなお斗かれており、我々明大三斗連は一期工事阻止、四〇〇〇米滑走路粉砕、六月開港阻止の方針の下、現地反対同盟と斗う全ての人民と連帯し、更に斗っていくだろう。

新生の諸君へ

明治大学新聞編集部（マツブ共闘）

闘争主体、運動主体に対する権力——支配階級の弾圧は、カラーテレビの画面の華やかさとは裏腹に、暗黒の時代状況を予告している。朝霞自衛官殺害・赤衛軍事件などを契機とする。一、一〇沖縄全島ゼネスト・機動隊殺害事件、そして、滝田氏、川本記者、春日原記者を頂点とする佐木隆三氏、吉岡カーラマンを頂点とする権力の弾圧攻撃は、現在編集者、知識人に対し思想×弾圧として、あらゆる「合法的」△洞唱▽をもつて開始されている。

昨年一二月以来国家権力による反対同盟を始めとする三里塚斗争を防ぐべての人民に対して無差別の弾圧が続いている。そればかりわけ「九・一六の三警官の死亡」を口実とした青年行動に対するアーチャーによる大量逮捕、別件逮捕、長期拘束、再逮捕としてあらわれている。それは警察自体が物証をもつてないが故に長時間にわたる取調べ、テロ、リンチによる自由の強要、ありもしない自白を発表することによって他の同志への動搖を換起すると

いう弾圧形態を生みだしてきている。このことは青行といふ我軍を媒介にして、我々が身をもつて階級斗争としての、ブルジョワ社会における強力な破壊力を持った三里塚斗争にかかわった。

近代社会においては死というものがブルジョワによって分類されており、我々はそれに規定されねばならない。

だからこそ「人民の利益のために死ぬのは泰山よりも重い」。アシストのために力をつくし人民を捕獲し抑圧するもののために死ぬのは羽毛よりも軽い」(毛沢東)のであり、これが全てを語っている。とりわけ九・一六のよう

な場合、誤ってはいけないのは、各々の闘争はそれをなす者によつてとらえ方が標準であり、その結果の評価等も当然にも違ってくるのであるから、一体何を原則的な

我々の視点とするのか、ということである。

一 青行への弾圧を許さない

による革命的左翼に対する弾圧、破防法体制、刑法改悪、保安處分設置、裁判の軍事・秘密裁判化、火災ヒン立法、被疑者審査規則、アパートローラー作戦等を粉砕する戦いの一環として断固たる戦いを組織しなければならない。

三里塚斗争は反対同盟を中心として今もなお斗かれており、我々明大三斗連は一期工事阻止、四〇〇〇米滑走路粉砕、六月開港阻止の方針の下、現地反対同盟と斗う全ての人民と連帯し、更に斗っていくだろう。

。 三里塚空港粉砕 /
一期工事阻止 /
四〇〇〇米滑走路粉砕 /
六月開港阻止 /
関連事業粉砕 /
バイブルライン阻止 /
。 全ての新入生諸君、明大三里塚斗争連絡会議に結集し、共に斗わん /

- 29 -

- 28 -

大學社会として例外ではない。「學問、研究の自由、大學の自治」の幻想を、六八、六九年の全国学園闘争の渦中で暴露され、解体された大學権力はその「暴力性」を恥はずかしく露わにして、ローカルト体制なるアカデミックな体制を構築した。明治大學も勿論例外ではありえないことは、ヒヤカでグロテスクなほりめぐらされた

鐵橋がよりもそれを物語っている。大學当局の「教育委員会策策本部」とってて委わられ、そしてその本

政府「理學會の自治」なのだ。

貧は「理學會の自治」なのだ。

こうした大學権力の暴力性をむきだしにした、支配、管理の逮捕は、そのはどんとかこの間最も競争的で争つてきた人々であることを見ててもわかるように、青行といふだけでは逮捕されるものではない。しかも物語となるものは一切無いのである。これは実質的な組織破防法であり現代の國家権力による一種の弾圧攻撃の量も露骨なとして頂點をなすものとしてあるのだ。

我々はこれらの攻撃を我自身に向かっているものとして受けとめなければならない。この間の日本帝國主義

闘争であったのだ。明大闘争に始まりはあったとしても終わりはない。

大學権力のイデオロギー支配を拒否したことを契機にし、处分攻撃は、団交・授業介入・団交等々を経る中、处分の執行回にとどまらず、編集権・自治権、さらには管理、運営権をかち取った。しかし「明大新聞学会騒動」は決つて奪権闘争であった訳でも、市民権獲得闘争であった訳でもない。

「われべわれ」が問題としなければならなかつたのは、自らは常に客観者であり、傍観者であった。公立中立の幻想に支えられてきた「明大新聞」を支えてきた自らの意識性であり、それが「明大の自治」の「教授の自治」は臨時改革しかない。「大学の自治」は臨時改革によって強固な結びをもつ反対同盟統一の切り崩しとしである。同時にこれらの弾圧は赤軍、京浜安保共斗、R G、中核派等にかけられた実質的組織破防法攻撃と同質のものであると云えるだろう。すなわち四〇名にも及ぶ青行の逮捕は、そのはどんとかこの間最も競争的で争つてきた人々であることを見ててもわかるように、青行といふだけでは逮捕されるものではない。しかも物語となるものは一切無いのである。これは実質的な組織破防法であり現代の國家権力による一種の弾圧攻撃の量も露骨なとして頂點をなすものとしてあるのだ。

我々はこれらの攻撃を我自身に向かっているものとして受けとめなければならない。この間の日本帝國主義

ではない。

「われべわれ」が問題としなければならなかつたのは、

自らの意識性、存在性を問題とすると同時に「わたし」であり、「あなた」の関係性を問題としなければならない。それまで「明大新聞」なるものは自らの立場性を一切捨棄し、存在性であったのだ。権力（個別権力）ではあつたが」との如きが展開された。それは「明大新聞学会騒動」ではあります。それが対象化する作業でもあった

教授との対話」はタオリの中で、ということらしい。

「われべわれ」に象徴される「思想」は支配と管理の思想なのである。そこには最も競争的で争つてきた自らの意識性であり、それが「明大新聞」を支えてきた自らの意識性であり、それが「明大の自治」の「教授の自治」は臨時改革によって強固な結びをもつ反対同盟統一の切り崩しとしである。同時にこれらの弾圧は赤軍、京浜安保共斗、R G、中核派等にかけられた実質的組織破防法攻撃と同質のものであると云えるだろう。すなわち四〇名にも及ぶ青行の逮捕は、そのはどんとかこの間最も競争的で争つてきた人々であることを見ててもわかるように、青行といふだけでは逮捕されるものではない。しかも物語となるものは一切無いのである。これは実質的な組織破防法であり現代の國家権力による一種の弾圧攻撃の量も露骨なとして頂點をなすものとしてあるのだ。

我々はこれらの攻撃を我自身に向かっているものとして受けとめなければならない。この間の日本帝國主義

ではない。

「われべわれ」が問題としなければならなかつたのは、

自らの意識性、存在性を問題とすると同時に「わたし」であり、「あなた」の関係性を問題としなければならない。それまで「明大新聞」なるものは自らの立場性を一切捨棄し、存在性であったのだ。権力（個別権力）ではあつたが」との如きが展開された。それは「明大新聞学会騒動」ではあります。それが対象化する作業でもあった

教授との対話」はタオリの中で、ということらしい。

「われべわれ」に象徴される「思想」は支配と管理の思想なのである。そこには最も競争的で争つてきた自らの意識性があり、それが「明大新聞」を支えてきた自らの意識性であり、それが「明大の自治」の「教授の自治」は臨時改革によって強固な結びをもつ反対同盟統一の切り崩しとしである。同時にこれらの弾圧は赤軍、京浜安保共斗、R G、中核派等にかけられた実質的組織破防法攻撃と同質のものであると云えるだろう。すなわち四〇名にも及ぶ青行の逮捕は、そのはどんとかこの間最も競争的で争つてきた人々であることを見ててもわかるように、青行といふだけでは逮捕されるものではない。しかも物語となるものは一切無いのである。これは実質的な組織破防法であり現代の國家権力による一種の弾圧攻撃の量も露骨なとして頂點をなすものとしてあるのだ。

我々はこれらの攻撃を我自身に向かっているものとして受けとめなければならない。この間の日本帝國主義

ではない。

「われべわれ」が問題としなければならなかつたのは、

自らの意識性、存在性を問題とすると同時に「わたし」であり、「あなた」の関係性を問題としなければならない。それまで「明大新聞」なるものは自らの立場性を一切捨棄し、存在性であったのだ。権力（個別権力）ではあつたが」との如きが展開された。それは「明大新聞学会

これに対し我々は、一昨年の六・一九、昨年の六・一九、一〇・一八と本校地区学館放斗争を全学的に貫徹し、鐵柵の排除、学館の解放を実現した。学校当局はこれに対して機動隊の導入、電気、水道のストップとして體骨的な彈圧を実行してきたがびるままでに斗い、現在も学館の解放を実現しています。

庄して来るが、これは中大・北大などの学館封鎖と無関係ではない。この間激しく斗かれて来た神田の地区では、争斗を「なにがなんでも」押しつぶようとする東京府の意図で、争いの本拠地の大谷一至した争斗圧迫としてある。従い、我々の斗争も、ただ単に即具体的な家内解放斗争としてのみならず、権力の神田地区治安体制の突破、解体に向けた方向性を持たねばならないだらう。

- 36 -

二十四時間総体からの反乱を

明大駿台地区労働運動研究会

か／
君達が日常的に受け取れるやもしれない今日の明大の状況は決して日常的なものではないのです。一つ一つの現象も、その中には多くの問題を孕んでおり、幾多の行為の堆积を含んでいるのです。単に日常的なものとしてそれを外する一つ一つのものに対する斗いを開始しようではないで、学校当局は、我々の学館解放斗争の最中に、神田警察署と電話で話すようなことを平氣で行いつつ、その一方では「大學の自治を守れ」などと欺瞞的な言葉を平気で口にしてゐるが、和泉地区・生田地区の学館を開館しながら（それも、我々の実力解放の後、学館解放を承認する、といふ形式で）本校地区については頑なに学館解放を拒否して

もとより、我々の獲得する学館解放とは、当局の意図するような「悪いの場・総合娛樂センター」ではない。無味乾燥なクラス、無内容な娛樂に対する怒りが湧くが、それが矛盾の本質を認識する方向に進むのを防がんとして、怒り不満を中和し忘れさせる方法として「悪い・娛樂の場」として、学館を位置付ける当局の欺瞞的姿勢に対し、我々は銳く対決する所より出発しなければならない。そうがない限り、独占資本の支配より生まれてくる所の疎外感を一時的に解決せんとしても、それは重く暗く深くすぶり続けどこ迄行っても、されることはないだろう。

真に解放された、創像的実践の場としてあらゆる人間的な可能性を獲得してそれを求められねばならぬ新しい、クラス。サークルを含めた下からの幅広い運動の過程の中に位置付けられねばならない。これ迄、学館が部分的にしか活用されなかつたことを正しく視つめ、かつ、

今、明大Ⅱ部に働き且つ学ばんとする諸君／日々のその生活過程を昼間の労働において、資本制生産様式の寫眞中あり、労働監獄、分業、分断、競争、身分差として打ち固められ、その事に対する感性的苦痛と疎外された労働から全面的人間として發展せんとする生きた労働者の血のたる様な怒りを感じつつ、一切の既成の組合運動が社民、民間の包摶の中に屈服して行く中で全くの解決能力を持ちえず、又四年間の限定期と言ふ、あたかも個人の自由なる選別かの様に見えつつ、実は資本の労働力商品市場支配の秩序の中に入り、繰り返し、繰り返し安価に使い捨てられる商品としてある臨時労働者の合理化、近代身分制度、差別雇用を受けての苦痛は未組織、あるいは将来への幻想として現在的には解決されえない、この屋間の労働過程における性格を、その実は更に打ち固められて行く物として、夜の教育過程における学生としての存在が教育監獄における労働力商品生産再生産過程としてある事を見なければな

展開がはるからず、新しく明大II部に学ばんとする新入生諸君の自治会運動への結集が、その事をささえるクラス運動が、又サークル運動がそう言った質を持った物として展開される事を訴えたい。

中教審答申を実力派とする帝国主義ブルジョアジーの教育の帝国主義的改編としての攻撃はII部学生に夜間大学改廃をしてあり、我々は、今、この事に対する真向からの闘争の闘いを夜学連続成をも見未だ、教育を労働者階級の手に奪還する為の闘いとして働き手も自らの解放をかけ闘いいかねばならない。II部学生に多い臨時労働者と言ふ事の関係において賃金労働者であり控えめな心持を取されているにもかかわらず、自らの特殊的背景とと言う事を持って、現在の低賃金、劣悪労働条件不等なる身分差異を持つて、支配されがんじて行き、自らの運命を将来の高価に再

当局の矛盾蘊藏策をも激しく叫響しつゝそれは求められたければならない。同時に、あらゆる創造的実践・運動に対するは必らず「きちがひみた」武力弾圧を加えて来るに権力に対しては、中・東部地区各校と、新しい地区運動の裸野と共に之を共有しつついなかねはならないだろう。

七二年の今は非常な苦痛としてあるだろう。

膨化したマスコミは、それ自身の必然として、よいよ浪濶は深くなりつつあるし、権力の弾圧の網はいよいよ露骨化に厳しく張り巡らされ、一方、拡大する方向にしきその矛盾を解決しない独占資本は、悪無限的に拡大しいよいよ浪濶の根を括げてゆく。世相を表面的に眺め、自己と無関係に語る人々は床屋改談などに落ちてゆき、マスコミ文化人、文化人の文化人はただそれを追って行くことしか知らぬ。どこ迄行ても馬鹿は馬鹿だ、としか云えない。だが、幻想の内に生き、幻想の内に只想を欲しようとも、現実は決して許してはくれない。どこ迄行こうとも、絶望は絶望として続き、孤独は君達を苦しめ悩まし続けだらう。希望も夢も、決して未来にかなえられはしない勿論、君達が暗い現実を遠ざけるのも可能であるし、一日の生をより良く（金銭的に）生きんとして技術的に自己を教育することに専心するのも又可能である。しかし、それでも君達の苦痛は決して消えやらぬだらう。ぼくたちが、

はるか昔の時代から、男達を前にて亞想などと有る
はしないのかどう 日共川民育のことをよく選択しないなら
ば、必ずその斗争を共にほくたちは共有しようだろ。
日常性に自己を喪失することなく、自己をあくまでも視
つめつゝ君の斗争を開始せよ
その時、ぼくらは互いに疎外することなく斗争を共有し
えるのだ



そして今年「真理と正義を愛し、個人の価値を尊び、勤勞と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健廉な国民」（教育基本法一章）とする教育理念と合致しない現実の教育行政（法現象）を憲法的問題として把え、法規範と社会の諸要因とのからみ合いを動態的に分析し、それぞれのファクターの間の法則的な関連を探り、国民の教育権、教育の自由の確立を目指しての研究を行なっています。

また法学、憲法、民法、刑法の自主ゼミナール、裁判所見学、法律討論会、春秋の合宿、コンバ等を行なっています。科学としての法律学を研究し、その中で仲間づくりをしようとする者たちよ、ぜひ我法研の門戸をたたきなまえ。

経理研究部

知っていますか。
こんな社会を作っているのは私達自身であるということを。

彼らを苦しめているのは、彼らに同情する、ことしかで、きない私達の内なる意識そのものであるということを。

だからこそ今私達に問われているものは、こんな社会でしなければならないことは何かということなのだ。

この問い合わせに自分であるために、私は今、マル研にいる。

「帝国主義」や「哲学の貧困」や「ドイツイデオロギー」を学ぶ、そのことだけではなく、なぜこれをやり、又、学んでどうするのかまで、考えようとなれば、今、私はマル研にはいない。

経済学を単に知識として知ることではなくそれが実践されて、はじめて生きてくるんだということが、「人間が学ぶ」ということの本質じゃないかと思うんです。

あなたは、どう思いますか？

あなたといっしょに考えて、何かをしたいのです。

あなたもそれを望むならきて下さい。

今、すぐ、マル研に。

に入りませんか。会計士や税理士を目指すとする人からほんの少しだっても簿記を見てやろうとする人まで、親切な講座をもっと初歩からお教えいたしまして、貴方に学んで少しだけでも地理に興味のある方を求めます。少しでも地理のことだけではなく、どんなことで開拓されたいと思いません。そしてまた淋しがります。学生らしい学生生活は、楽しい方が得られる事でしょう。学生らしい学生生活をおくりたいと思う方、楽しく実のある学園生活をおくりたいと思方、この明治大学の二部にて、それを十分に得られる所はこの経理研究部をのぞいてはしないように思います。熱い友の友情に涙したい方どうぞ入部してください。そしてファイトをもつて頑張ってください。

経理研究部（マルクス主義研究部）

知っていますか。
職業会計人を目指すとする人だけが、経理研究部に集

っている訳ではない。経理研究部とはさまざまな個性と趣味を持った多くの人の集団といつてもよい。百五十人もの部員が皆、会計士や税理士を目指して勉強ばかりしていたのでは怠けるしくたまらないし、またさうであつてはサ

ークルではない。友と語らい、歌い、そしてコンバ好きな人が、心の底に願わくば幾会計の知識を身につけていた

思ながら、始終ギターや将棋などをもちこんで部室で友を待っているのである。新入生の諸君、君達もそんな仲間

に入りませんか。会計士や税理士を目指すとする人からほんの少しだっても簿記を見てやろうとする人まで、親切な講座をもっと初歩からお教えいたしまして、貴方に学んで少しだけでも地理に興味のある方を求めます。少しでも地理のことだけではなく、どんなことで開拓されたいと思いません。そしてまた淋しがります。学生らしい学生生活は、楽しい方が得られる事でしょう。学生らしい学生生活をおくりたいと思う方、楽しく実のある学園生活をおくりたいと思方、この明治大学の二部にて、それを十分に得られる所はこの経理研究部をのぞいてはしないように思います。熱い友の友情に涙したい方どうぞ入部してください。そしてファイトをもつて頑張ってください。

- 44 -

地 理 学 研 究 部

知っていますか。
水俣で、チタンに犯された子供が、「水俣の海も、東京湾

のよう真黒になってしまった」と言つたことを。

身体障害者が、施設の中でしか生きられないことを。一步、我々が、生きている社会で、いっしょに生きようとすれば殺されてしまうことを。

彼らにとって、駅のやたら多い階段が、どんなにうらしいもののかを。

弱い者を、おき去りにし、殺し、それをふみ台にして動いている今の社会!!

明大二部へー自分の意志で来た人も、一部くずれいやいや来る人もーとにかく女性おめでとう!! 電気研究部と一緒にいることを。そこで、異色味のないサークルに思えるかもしれない。そこで一応の概観を話しておきたいと思う。

現在我がサークルはオーディオ班とアマチュア班とに別れている（といってもお互いに交流がないわけないが）。オーディオ班の主たる活動は、試験時、休暇時を除いた各月毎に行なう「電研ステレオ・コンサート」である。このコンサートで我々が常日頃組み立てた電源、アンプ、プレーヤー等を使用し、我々の手で企画、構成しアナンサーオーディオによるD・J方法が多くとられている。（ここでは女性のアナウンサーや番組構成員が必要となる。）オーディオは、電気研究部に入ることによって大学生に見えてほしい。サークルに入るによって大学生活をよりエンジョイして欲しいと思う。

電 気 研 究 部

状況については前述した通り自信のない状態です。

サークルを堅い集団と考えないでサロング的なものと考え、いたたかい。

又、アマチュア班の方は、部室にある機械を使用し、機会あるごとに、多くの見知らぬ友とアマチュア無線による交信を行っている。

ハムの免許を持っている者はもちろん、これからやっ

なつりでお互いにやつて行こうじゃありませんか。

見たいと思う者にも援助を惜しむような事はない。気楽

に見せて欲しく。サークルに入ることによって大学生

活をよりエンジョイして欲しいと思う。

駿河台映画制作研究部

「己のテーマを映像化する!!」これが駿河台映研のサークル質である。其の中で「映画」、「映画表現」

の何をするかを探り其の魅力に没するのである。

次郎さんの楊枝、今は見られぬ純子さんの風氣、鶴田

さんの男、健さんの刺青そして寅さんの人情に見惚れた「

あんさん」も映画を自ら手掛けて見ようではないか。そろ

した中で明治大学二部に存在する自分を主張し、学生渡世

を生きて行こうではないか。

時代には過去、映画の歴史を学ぶ内にエイゼンシュ

タインを経由、チャップリンの美に笑い驚き、映画表現の

原点をも把握せむとする。……が、しかし、俺達は、彼

- 45 -

等二人に惚れ、再び現代に戻り鈴木清順特集を求めて夜を明し、若松孝二のボルノを見ても駿台映研自身、独特の作品を企画し、制作して行くのである。

ある個人の詩

僕は疲れて、いるのでしょうか。
寂しく広がる荒野にひとり、昔を慕っているのです。
……いつも同じ電車に乗り合う可愛い娘がなつかしいのです。

言葉をかわしたこともない、名前も知らないあの娘なのに。

なぜか今、心に鮮明に映るのです。そして実に美しく。
なぜか、彼女に近づこうとするとき僕自身が拒むのです……僕は疲れているのでしょうか。

新入生諸君、英語に興味を持たれている方は、一層我が家で活動に来られたし、

私が研究部の明るく楽しい雰囲気に君達も満足してくれることと思います。

英 語 研 究 部

のパーティを組み立てたりするのが好きな者はぜひ入部していただかうとする次第です。

現在の活動状況を報告しますと「過疎問題」について研究しています。過疎の生じた原因・現況・将来性についてで

すがどうして過疎問題をとり上げたか、現在の具体的活動

は、皆さんに我々のサークル再建の一端をになつた

予定を述べた。

新入生諸君、英語に興味を持たれている方は、一層我が家で

活動に来られたし、

私が研究部の明るく楽しい雰囲気に君達も満足してくれることと思います。

- 46 -

- 45 -

- 46 -

ます。

男 声 合 唱 团

混 声 合 唱 团

青春を何かにぶつけるべきではないか。
クラブは目的的ではない、O.B.先輩、他学部の友を生み出す友情の場なのである。大自然の未知へ心身共にぶつけよう!!

駿 台 山 岳 部

北国のはるか奥山アルプスの峰々は長かった冬に別れを告げ、重い雪の帽子を脱ぎ捨てて、再び生まれ変わってくる時期となりました。草木は淡い陽を求め、活気づき、小川のせせらぎも雪解けの水を満々とし、あふればばかりに河へとそそぐ。我々の心はそんな自然に感動でられ、一齊に人々を飛び出します。我々の「ウォーカーの世界を求めて!!」

君達も我々と一緒に自然を求めて行こうではないか。

我々クラブは部則第四条「本部は自然を歩き回ることにより、見識を深め、体力、精神を鍛錬し部員相互の親睦を深めるとともに、マナーの正しさの理解と指導を行ない、自立的、協調性を養い、巾広い人格を形成し、有意義な学

生活を送ることを目的とするものである。

自然、自然と言つても抽象的で、明確なる解答を得られない。だが我々は机上の理屈でなく、自分の身体を使い、自分の目で、自分の足で求めてウォーキングである。

これから君達は四年間の大学生生活をするわけであるが、勉強の虫になる人もいよう、だが勉強だけでなく、もっと

アーバンをボーラムグランドと、地道ではあるが一步一歩着実な歩みを続けてきてほしい。最近の主な活動としては、昭和四十五年度冬合宿を置いて、韓国濟州島・漢

南山にてクラブ員全員参加し、大成功のうちに終了させ、さらには、昭和四十六年度冬合宿において、創立以来の

念願であった南アルプス冬合宿を達成し、積極的に行動している。以上の如く、我がクラブは個人の積極性を

- 48 -

昭和三〇年「うたう会」の活動の中で合唱部が生まれ、やがて男声合唱団として独立し、昭和三年アーヴィング・ヴァーノン（黄金の声）と名付けられました。その後は混声オーケス（黄金の声）と名付けられました。その後は混声と共に活動を続け昭和三五年の第一回目の定期演奏会を持ち至り、今年で一三回目の定期演奏会を迎えることになりました。その間、東京都合唱コンクール、都連合唱祭など数多のステージを持ち、混声との分離などを経て、個性ある合唱体として、過去一七年間の歴史を歩み、常任指揮者の山本竜紀先生、ヴァイオリストレーナーの宮本昭太先生と共に努力を続けています。部員たちは攻・商・文・農学部とバラエティに富んだ幅広い個性豊かな人間の集まりで、全て合唱に生きがいを見出し、自ら発する何とも表現のしようのない声で歌いしれるのであります。練習が終われば、快い気持で神田をさまよひながらある者は先輩と一緒に語り合い、又ある者は酒をくみかわし、ある者は麻雀すこね……。とにかく飲む、打つ、買う、と三拍子もそろつた完全な男女の集りなのです。そして常に我々は合唱技術の向上と人の和を大切にすることを念頭に置き、大学生活を有意義に送っております。

新入生諸君、我々は君たちの入部を心からお待ちしてい

男声合唱団アヴァーノン（黄金の声）の活動に女子学生を加え混声合唱団コール、フロイデ（歡喜の合唱）が発足し、昭和三五年に第一回定期演奏会を持つに至りました。昭和三七年には（その間は男声合唱団員が兼ねていましたが）ここに男声合唱団員と混声合唱団員の分離を図り、明大二部合唱部の中に二つの各自独立した合唱体が活動することとなりました。昭和四五年には、男声・混声のもう音楽性の特質を生かせる活動体として又、両者依然から個性ある合唱体をめざさうと完全独立が決定され、独立の専門内外の準備を進めまいりました。新入生の皆さん、入学おめでとう。

この、厳しい物事が何ひとつスマートに進まない、やりきれない世の中。

私達、明治大学二部混声合唱団コール・フロイデは、常により高きもの、美しきものを求めて努力している。音楽は合唱は楽しく、明るく、そして悲しくも淋しい心をもつ。人間の喜怒哀樂をよく知っている歌の心。私達はその心を歌う。人間として、人間性の失なわれた社会に、人間の心



- 49 -

の美しさを確認する場所としての合唱団。決して逃避の場所ではない。歌をうたう。その中に何か、自分の精神を強くするものを見つけている。君の声と私の声が一緒にになったときの、涙が出るようなあいの瞬。それがほんの少しことに集まっているのです。

明治大学二部混声合唱団コール・フロイデ

運動部の中心となり、一昨年に於いては東日本二部学生空手道選手権大会で優勝等輝かしい成績を残し、東日本二部空手道の先導的立場で活動している。

口先ばかりの男、中性的な男
ややしのような男は、我部では必要なし

学生の使命とは何か／教室における正課の授業で専門的な知識を身につけた勝利人となるためであるのか、心身を鍛え戦技を鍛全にし人格の形成には仲間との絆といふの使命を達成することができるのか、これらを達成せんがため、手段として我部が創設され今日に到る。我部は日本最古で最大の会員数を誇る空手界の一つである和道会に属し和道流本部師範大塚二郎先生の指導の下にて日進歩歩している。我明治大学学苑会研究部連合会に於いては數少ない。

希に燃えて入学された事と思いますが、いまや大学は混迷し、その精神を失なわぬ様な現状です。

(六〇)年代後半に於ける全面的学園競争によつて根深らぬものは改革されず、敗略に満ちた表面的なものしかありません。かくして学内は反動化されつつあるのです。

かかる現状を見るにつけて現在の大学当局に対し個性を伸ばすこと期待することはできません。ここにサークル活動をとおして個人としての立場と大学のおかれていた現状とを問いかねお訴ことができるものと信ずるのであります。

二部バスケツ部

新生のみなさん入学おめでとう。

学生生活を有意義なものにしてほしい方は、どうぞ当クラブへ入部して下さい。「求めよ、さあばえられん」です。

なお経験の有無、男女の別を問いません。

- 51 -

発行 学苑会中央執行委員会
委員長 永田 修
編集 新入生歓迎実行委員会
責任者 福田 守穂
1972年4月5日

- 50 -